

157「ぶどう園と農夫」のたとえ

マタイによる福音書 21 : 33~46 (マルコ 12 : 1~12、ルカ 20 : 9~19)

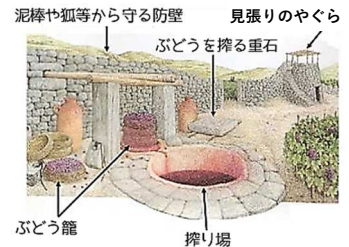
33 「**もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人** (→神) **がぶどう園** (→ぶどう畑=イスラエル→神の不実な花嫁エルサレムの都) **を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫** (→ユダヤの指導者) **たちに貸して旅に出た。**

→ぶどう園は通常、石の多い丘陵地であって、ぶどう(葡萄)を泥棒や狐等の動物から守るため防壁(塙)で囲まれていた。そのため、見張りのやぐら(見張り小屋、監視塔)が近くに建てられる場合もあった。

ぶどう栽培は非常に手間がかかるので、所有者はぶどう園で働く多くの労働者が必要であった。当時は世の中が不穏であったこともあり、地主はぶどう園を人(小作農)に貸して、別の土地で暮らし、地代を取った(→不在地主)。

→家の主人は神であり、ぶどう園はイスラエル、あるいはエルサレムの都であり(イザヤ 5 : 1b)、農夫たちはイスラエル人の指導者、つまり祭司長たちやファリサイ派の人たちです(45節)。

一般に「ぶどう園(畑)」はイスラエル(イザヤ 5 : 7)を意味する。



ぶどう畑の歌 (イザヤ書 5 : 1b~7)

わたしの愛する者は、肥沃な丘に／**ぶどう畑**(=イスラエル、7節→神の不実な花嫁エルサレムの都)を持っていた。よく耕して石を除き、良いぶどうを植えた。その真ん中に見張りの塔を立て、酒ぶねを掘り／良いぶどうが実るのを待った。しかし、実ったのは(神にとって、イスラエルは罪の多い、期待外れの)酸っぱいぶどうであった。

さあ、エルサレムに住む人、ユダの人よ／わたしとわたしのぶどう畑の間を裁いてみよ。

わたしがぶどう畑のためになすべきことで／何か、しなかったことがまだあるというのか。わたしは良いぶどうが実るのを待ったのに／なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか。さあ、お前たちに告げよう／わたしがこのぶどう畑をどうするか。囲いを取り払い、焼かれるにまかせ／石垣を崩し、踏み荒らされるにまかせ／わたしはこれを見捨てる。枝は刈り込まれず／耕されることもなく／茨やおどろが生い茂るであろう。雨を降らせるな、とわたしは雲に命じる。

イスラエルの家は万軍の主のぶどう畑 (→このぶどう園というのは神の民のことです)／主が楽しんで植えられたのはユダの人々 (→ユダは、神のお気に入りでした)。主は裁き(ミシュパト)を待っておられた (→神はそこが正義の国となるのを期待していた) のに／見よ、流血(ミスパハ) (→実際に目にしたのは流血でした)。正義(ツェダカ)を待っておられた (→正しいことが行われるようにと願っていた) のに／見よ、叫喚(ツェアカ) (→実際に耳にしたのは、しいたげられた人たちの叫びでした)。

※叫喚：喚き叫ぶ、どなる→阿鼻叫喚：悲惨な状況で泣き叫ぶこと

【一言】ブドウに含まれる糖分

果汁が発酵してアルコールを生み出すもとなるのが、ぶどうに含まれる糖分。そのため、ワイン用のブドウは、生食用のぶどう以上に高い糖度が必要になります。生食用のぶどうの平気的な糖度が 15~20 度程度なのに対し、ワイン用のぶどうの糖度は 20~25 度程度です。

→アボカド 0.9、いちご 7.1、夏みかん 8.8、もも 8.9、グレープフルーツ 9.0、すいか 9.2、メロン 9.8、梨 10.4、オレンジ 10.8、キウイ 11、みかん 11、パイナップル 11.9、イチジク 12.4、りんご 13.1、柿 14.3、バナナ(甘蕉) 21.4 g (果物の 100 g 当たりの糖質量、[日本食品成分表](#) 2015 年版/7 訂)

【一言】たとえ話

聖書にはイエス・キリストが話された多くのたとえ話が出て来ます。たとえ話とは、イエスが日常生活で起こるようなことや人々がよく知っている話題を取り上げ、それらから霊的教訓を教えるために組み立て、話されたものです。

34 さて、収穫の 때가近づいたとき、(主人は自分の分の) 収穫を受け取るために、僕 (→神によって遣わされた預言者、歴代下 24:19、36:15) たちを農夫 (→ユダヤの指導者) たちのところへ送った。

→歴代誌下 24 : 19

彼らを主に立ち帰らせるため、預言者が次々と遣わされた。しかし、彼らは戒められても耳を貸さなかった。

→歴代誌下 36 : 15~16

先祖の神、主は御自分の民と御住まいを憐れみ、繰り返し御使いを彼らに遣わされたが、彼らは神の御使いを嘲笑い、その言葉を蔑み、預言者を愚弄した。それゆえ、ついにその民に向かって主の怒りが燃え上がり、もはや手の施しようがなくなった。

35 だが、農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし (→旧約の預言者たちが受けた迫害、歴代下 24 : 21、ネヘミヤ 9 : 26、エレミヤ 37 : 15)、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。

→歴代誌下 24 : 21

ところが彼らは共謀し、王の命令により、主の神殿の庭でゼカルヤを石で打ち殺した。

→ネヘミヤ記 9 : 26

しかし、彼らはあなたに背き、反逆し／あなたの律法を捨てて顧みず／回心を説くあなたの預言者たちを殺し／背信の大罪を犯した。

→エレミヤ書 37 : 15

役人たちは激怒してエレミヤを打ちたたき、書記官ヨナタンの家に監禁した。そこが牢獄として使われていたからである。

36 また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。

→ルカによる福音書 20 : 10~12

収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、①僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。②そこでまた、ほかの僕を送ったが、農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。更に③三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。

→①バビロン捕囚前の預言者たち、②捕囚後の預言者たち、③バプテスマのヨハネとイエスの弟子たち

37 そこで最後に、『わたしの息子 (→イエス・キリスト) なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。

38 農夫たちは、その息子を見て話し合った。

『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』

→この言葉は、ユダヤ人の指導者たちがキリストの主権をねたみ、彼らの虚偽の立場を維持しようとしたことを示している。

39 そして、息子を捕まえ、ぶどう園の外にほうり出して (→追い出して) 殺してしまった。

→キリストは、エルサレムの都の外で殺されました(ヨハネ 19 : 17、ヘブライ 13 : 12)。

→ヘブライ人への手紙 13 : 12

それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、(エルサレムの城壁の) 門の外 (→宿営の外、汚れた地) で苦難に遭われたのです。

※ヘブライ人への手紙は、ユダヤ人のキリスト信者たちに向けて書かれた。

40 さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。」

41 彼らは言った。

「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫（→使徒）たちに貸すにちがいない。」

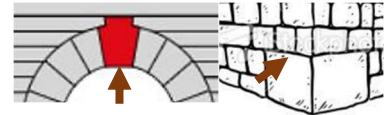
→AD70年に、後にローマ皇帝となるティトウスとその軍隊が、エルサレムを滅ぼした時に成就した。

42 イエスは言われた。

「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家（→神殿）を建てる者の捨てた石（→イエス）、これが隅の親石（the cornerstone、口語訳：かしら石、新改訳：礎の石）となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』

→隅の親石は、石造建築物の基礎の内、隅に据える要となる石（要石）を指す。ここでは、捨てられた石（無価値な石）が神によって最も重要石）になったという意味である。



→キリストは貴い隅の石（イザヤ 28：16）である。

→詩編 118：22～23

家を建てる者の退けた石が隅の親石となった。これは主の御業／わたしたちの目には驚くべきこと。

→使徒言行録 4：11

この方こそ、／『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、／隅の親石となった石』／です。

→エフェソの信徒への手紙 2：20～21

使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。

→ペトロの手紙一 2：4～8

この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。

43 だから、言うておくが、神の国はあなたたち（ユダヤの指導者）から取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ（→神の国の実を結ぶ）民族（→将来において起こるであろう、大苦難[患難]時代の指導者たち）に与えられる。

→（リビング・バイブル）わたしが言いたいのは、こういうことです。神の国はあなたがたから取り上げられ、収穫の中から神に納める分をきちんと納める、ほかの人たちに与えられるのです。

→神の国は、ユダヤの指導者たちからは取り上げられるが、イスラエルから完全に取り上げられてしまうのではない。

→41 節

44 この石（→メシア＝イエス・キリスト）の上に落ちる者は打ち砕かれ、この石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。

→この石の上に落ちる者は、キリストにつまずく者、特に不信のイスラエル人を指す（イザヤ 8：15、ローマ 9：32）。

→「この石がだれかの上に落ちれば」：下記、「ネブカドネツアルが見た巨大な像の正夢」を参照

→神によって選ばれた一つの石は、ある者にとっては「つまずきの石」「妨げの石」となる。しかし、この石に信頼する者は、決して失望することはない。時には失望することがあるかもしれないが、パウロやペトロが記しているように、「主を信じる者は、決して失望することはない（失望に終わることはない）」のである。「石」であるイエス・キリストの下にしっかりと留まることで、ぶれることのない信仰者となって行くことが出来るのである

45 祭司長たちやファリサイ派の人々はこの（イエスが話した）たとえを聞いて、イエスが自分たちのことを言っておられると気づき、46 イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れ（何もできなかつた）。（なぜなら）群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。

【参考】ネブカドネツアルが見た巨大な像の正夢 →終末論的預言(神が予見し、将来、確かに実現する預言)

▶ダニエル書 2 : 31~36 →ネブカドネツアルの夢は「終わりの日に起こること」を預言した。

王様（→ネブカドネツアル 2 世）、あなたは一つの像を御覧になりました。それは巨大で、異常に輝き、あなたの前に立ち、見るも恐ろしいものでした。それは頭が純金、胸と腕が銀、腹と腿が青銅、すねが鉄、足は一部が鉄、一部が陶土でできていました。見ておられると、一つの右（→マタイ 21 : 42、マルコ 13 : 1、2、ルカによる福音書 20 : 17、エフェソの信徒へのてがみ 2 : 20、ペトロの手紙一 2 : 4）が人手によらずに（→メシアが神によって）切り出され、その像の鉄と陶土の足を打ち砕きました。鉄も陶土も、青銅も銀も金も共に砕け、夏の打穀（→脱穀、麦打ち）場のもみ殻のようになり（→その石（=メシア）は過去の諸王国を砕き、砕け散った王国の破片は）、風に吹き払われ、跡形もなくなりました（→異邦人が支配する時代が終わった）。その像を打った右は大きな山となり、全地に広がったのです。これが王様の御覧になった夢です。さて、その解釈を（私たちは王様の前で）いたしましょう。

巨大な像の正夢(ダニエル書2章) : 人間の視点から見た姿 ⇄ 神の視点から見た姿: 四頭の獣の幻(ダニエル書7章)

頭: 純金 (Au, K24)	比重 19.32
胸と腕: 銀 (Ag)	10.50
腹 青銅 (Cu + Sn)	8.96
腿 すね: 鉄 (Fe)	7.87
足と足指: 鉄と陶土(粘土)の混合	—



見かけは巨大だが構造が脆く不安定
(図: <http://www.wordexplain.com>)

バビロニア王国(BC625~539)
(絶対専制君主国家=王が統治の全権能を所有)
ナボラッサルによりメソポタミア南部のバビロニア(カルデア)を中心に建国(BC625)され、アケメネス朝ペルシアのキュロス2世によって征服(BC539)されるまで、地中海沿岸地域に至る広大な領土を支配した。

メディア・ペルシア(メディアを含むペルシア帝国)
(立憲国家、以下同) (BC539~331)
BC539、ペルシアのキュロス王2世(在位: BC559~530)は、オビスの戦いで新バビロニア帝国最後の王ナボニドス(在位: BC556~539)率いるバビロニア帝国を滅ぼす。

ギリシア王国(BC331~168)
BC331、ガウガメラを主戦場としてギリシア北部山岳地帯マケドニア王国のアレクサンドロス3世(大王、BC336即位20歳)とアケメネス朝ペルシアが衝突し、アレクサンドロスが大勝(ガウガメラの戦い)、アルベラの戦いでガウガメラの時と同じくダレイオス3世(在位: BC336~330、逃走中にバクトリア総督のベッソスに殺害される)は敗走、ペルシア制圧をした。

ローマ帝国(BC168~AD476)
BC168、第三マケドニア戦争でローマの将軍アエミリウス・パウルスがマケドニア王ペルセウスを決定的に撃破した(ピドナの戦い)。すねが二本あるように、ローマ帝国はやがて東と西に分かれる。

分裂諸国→利害や政策により成り立つ脆弱な連合組織
AD476、ゲルマン人などの侵攻に晒された西ローマ帝国は、急速に統治能力を失い、ローマの傭兵隊長でゲルマン人のオドアケルが皇帝ロムルス・アウグストゥルスを退位させ、滅亡を迎えた。・・・他・・・

【参考】バビロニア帝国、メディア王国、ペルシア王国、ギリシア王国とする説もある。
【参考】古代ローマ帝国はAD395年に東西に分裂した後、西ローマ帝国はAD476年に、東ローマ帝国はAD1453年にオスマン帝国によって滅ぼされた。 ©H.Taniguchi 2019

▶ダニエル書 2 : 37~45 →「歴史(世)の真の支配者は天の神である」とダニエルは訴えた。

王様、あなたはすべての王の王（→絶対専制君主）です。天の神（→創世記 24 : 3、7、ダニエル書 2 : 18、19、28、44、ヨナ書 1 : 9、ヨハネの黙示録 11 : 13、16 : 11）はあなたに、国と権威と威力と威光（→王国と権威と力と栄誉）を授け（→イザヤ書 45 : 1~4、エレミヤ書 27 : 5~7、ローマの信徒への手紙 13 : 1 参照）、人間も野の獣も空の鳥も、どこに住んでいようとみなあなたの手ゆだね、このすべてを治めさせられました。すなわち、あなたがその金の頭なので、あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します。第四の国は鉄のように強い。鉄はすべてを打ち砕きますが、あらゆるものを破壊する鉄のように、この国は破壊を重ねます。足と足指は一部が陶工の用いる陶土、一部が鉄であることを御覧になりましたが、そのようにこの国は分裂しています。鉄が柔らかい陶土と混じっているのを御覧になったように、この国には鉄の強さもあります。足指は一部が鉄、一部が陶土です。すなわち、この国には強い部分があれば、もろい部分

もあるのです。また、鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になったように、人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合うことがないように、ひとつになることはありません。この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます（→メシア王国：永遠に続く神の不滅の王国）。山から人手によらず切り出された石（→メシア、再臨）が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりましたが、それによって、偉大な神は引き続き起こることを王様にお知らせになったのです。

この夢は確か（→正夢）であり、解釈もまちがいございません。」

▶頭は純金（バビロン帝国）

純金であるというのは、バビロン（バビロン帝国、バビロニア王国）が、栄光に富んだ国であることを示している。神は、ご自身の計画を進めるために、異邦人の帝国を神の僕としてもお用いになる。バビロン帝国の興亡の歴史は、それを明確に示している。神がバビロンに与えた役割は、ユダヤ人たちの偶像礼拝の罪を裁くことにあった。バビロン捕囚の理由は、そこにある。バビロン捕囚以降、ユダヤ人たちが偶像礼拝に陥ることはなくなった。しかし、バビロン帝国がその役割を終えると、今度はペルシア帝国が興り、バビロンはメド・ペルシア連合帝国によって滅ぼされた（BC539）。

▶胸と両腕は銀（メディア・ペルシア帝国）

銀であるというのは、ペルシアがバビロンほどではないことを示している。ペルシア帝国は、ユダヤ人たちが自分の宗教を行うことを許した。キュロス王は、ユダヤ人たちの祖国への帰還とエルサレム神殿の再建を許可した。この時期は、ユダヤ人たちにとっては比較的平和な時代であった。旧約時代の最後の100年から中間時代（→intertestamental period=400年の沈黙の期間：マラキ書が完成してからキリストが登場するまでの期間）の最初の100年の合計200年がこれに当たる。

▶腹と腿は青銅（アレクサンドロス大王のマケドニア王国、ギリシア王国）

青銅であるというのは、マケドニア王国（帝国）がメディア・ペルシアほどではないことを示している。アレクサンドロス大王（アレクサンドロス3世）は、ペルシアのダレイオス王3世を撃破（BC331）、ギリシア系のマケドニア帝国が世界の覇権国となった。マケドニアの人々は遠征地にそのまま留まり、現地の女性と結婚し、家庭を築いた。その結果、東方世界がギリシア（ヘレニズム）化して行った。世俗的で人間中心主義のギリシア文明（ヘレニズム）は、偶像礼拝に対しても寛容であったため、唯一神を重んじるユダヤ人信仰に悪い影響を与えた。

BC323年、アレクサンドロス大王（在位：BC336～BC323）が死亡（死因は諸説ある）すると、アレクサンドロスの武将（ディアドコイと呼ばれる後継者）たちは、互いに争い、帝国は次の3つに分割された。→ヘレニズム三国（参考図：世界史の窓）

- ①アンティゴノス朝マケドニア
- ②セレウコス朝シリア
- ③プトレマイオス朝エジプト

特にセレウコス朝のアンティオコス・エピファネス（アンティオコス4世エピファネス）は、ギリシア文明とギリシア風信仰を強制、ユダヤの宗教、神殿を冒瀆、神殿に豚を献上し、異教の祭壇を築いた（サタンによるユダヤ信仰の破壊、BC167頃）。これに抵抗したのがマカバイ戦争（指導者：ユダ・マカバイ）である。この戦争に勝利したユダヤ人は、自治権を獲得、ユダヤ人王朝のハスモン（一族の先祖、祭司マタティアの祖父の名前）朝が出来た（BC140頃～BC37年）。

▶すねは鉄（ローマ帝国）

鉄は、第4の帝国が武力的に優れていることを示している。ハスモン朝を破るのは、ローマ帝国である。当時、ハスモン朝ではアリストブロス2世とヨハネ・ヒルカノス2世による王権争いに起因する内紛が起きていた。両者はともに、オリエン特地域へと侵攻したポンペイウスを味方につけようと画策したが、この内紛に付け込んだポンペイウスは、ヨハネ・ヒルカノス2世側に付き、エルサレムを陥落させた（BC63）。こうして、ユダヤは、ローマの属国となった。その結果、ユダヤは、ギリシア・ローマ文明



とユダヤの文明が混在するようになり、ヘロデ大王（ハスモン朝の身内争いで王座が空位となった際、ローマ元老院によってユダヤの王となった）の統治の下、圧政と重税に苦しめられた。このような状況は、ユダヤ人社会に、メシア待望の機運をもたらした。

▶足と足指は一部が鉄、一部が陶土[粘土]の混合（第4の帝国、分裂諸国）

【参考】 古代世界における「夢」の意義

古代世界において、夢は神々がなさろうとしていることについての情報を伝える預言の手段と信じられていた。このようなことから、預言者や王たちの立場からすれば、その解釈に対して、更に真剣さが求められ、与えられた夢は神の畏れ多いお告げ（啓示の手段）として、大切に受け止められ、解釈されたと思われる。

【参考】 メシア預言

タイトル(書名)		章:節 聖句 【検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 】	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K	イザヤ書	28:16 それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石／堅く据えられた礎の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。	
S	ローマの信徒への手紙	9:33 「見よ、わたしはシオンに、／つまずきの石、妨げの岩を置く。これを信じる者は、失望することがない」と書いてあるとおりです。	
S	ローマの信徒への手紙	10:11 聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。	
S	ペトロの手紙 I	2:6 聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、／シオンに置く。これを信じる者は、決して失望することはない。」	

▶イザヤ書 28 : 16 それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石／堅く据えられた礎の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。

- ・ 試みを経た石 使用に十分耐えられる試験済みの石
- ・ 堅く据えられた礎の石 要となる不動の石
- ・ 貴い隅の石 貴い＝尊い：最もすぐれた石
- ・ 信ずる者は慌てることはない これらの石（メシア）を信ずる者は、絶対的な安心がある。

→詩編 118 : 22～23

家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。これは主の御業／わたしたちの目には驚くべきこと。→メシアとして遣わされた一つの石が家を建てる指導者たちによって拒絶され、見捨てられた（十字架の死）にもかかわらず、神はその方を死から蘇らせて、神の家においてなくてはならない永遠の礎石とされた。

→マタイ 21 : 42、マルコ 13 : 1、2、ルカ 20 : 17、I コリント 10 : 4、エフェソ 2 : 20、I ペトロ 2 : 4

▶神によって選ばれた一つの石は、ある者にとっては「つまずきの石」「妨げの石」となる。しかし、この石に信頼する者は、決して失望することはない。時には失望することがあるかもしれないが、パウロやペトロが記しているように、「主を信じる者は、決して失望することはない（失望に終わることはない）」のである。「石」であるイエス・キリストの下にしっかりと留まることで、ぶれることのない信仰者となって行くことが出来るのである。

▶創造当初、最初の言葉を発したお方は、人類の歴史を閉じる言葉も持っている。

→すべては、神の御手の中にあるので、我々は希望を抱いて生きることが出来る。

